

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水との関わりを見る(水溜まり有り)

<テーマの設定理由>

4月より、園庭の水道や水溜まりで遊ぶ姿が多く、水で遊んでいる時間が長い事に気付いた。水遊びの中でどのような事に興味を持っているのか疑問に感じた為、水と関わる子どもたちの様子を追ってみる事にした。

2. 活動スケジュール

令和6年6月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

洗面器、タライ(大小)

*水との関わりを追っていく為、園庭玩具は用意しない。

*前日に雨が降っていた関係で、水溜まりも環境の一部とする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水溜まりの上を走って行き来する。
- ・洗面器を使い、水溜まりの水をすくったり流したりする。
- ・蛇口をひねって水の量を調整したり、水道の蛇口を握ったりして、様々な方向に水を飛ばす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○子どもたちの発見や感じているであろう事を保育者が考えながら、子ども自身が水と関わる姿を見守っていった。

- ・水溜まりを走って行き来する事を繰り返す。
- ・水溜まりの上を大きく足踏みした後、水際をじっと見つめる。
- ・葉っぱを水溜まりに浮かべる。
- ・水道の蛇口をひねり、水の落下点に指先を当てたり、手を洗ったりして、「冷たいね」と言葉を発する。
- ・洗面器に水道の水を入れると、手の甲を上にして、ゆっくり手を沈めたり上げたりする事を繰り返す。
- ・洗面器で水溜まりの水をすくったり、流したりする事を楽しむ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

前日の雨によって出来た大きな水溜まりに興味を持ち、水溜まりの上を走ったり、飛び跳ねたりする姿が多く見られた。また、水溜まりの上で大きく走った後、水際で立ち止まり、水面をじっと見る姿から、水が外側に逃げていく様子や、細かい気泡に気付いたのではないかと考えた。水溜まりがあったからこそ、遊びが盛り上がったのではないかと感じ、水溜まりが無い環境ではどのような遊びをするのか疑問に感じた。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭にて、水溜りがない時の水遊びの様子をみる

<テーマの設定理由>

水溜りがある時は、水溜りの中に入ったり走ったりしてダイナミックに遊ぶ姿があった為、なかった時にはどのように水と関わるのかを観察する。

2. 活動スケジュール

令和6年6月中旬、園庭の水溜りを無くして水道と洗面器のみという環境で様子を見る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭の水溜りを排水し、洗面器のみを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水道から洗面器に水を入れて明け移す。
- ・蛇口から出る水の感触や冷たさを手指で味わう。
- ・蛇口をひねり水の勢いを変える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

○子どもが感じているおもしろさや不思議さ等の姿を言葉や動き、表情から汲み取りあまり保育者が介入し過ぎずに見守っていた。

- ・Aが水を掴み「あむあむおいしい」と食べる真似をしていると、近くで見ていたBも一緒に食べる真似をする。しばらくすると、BがAの顔に水を塗り「ままのけしょうすいベタベタ」と塗り、水で見立て遊びを楽しむ。
- ・Cは水溜りで遊びたかったのか、洗面器に水を入れて水溜りがあった場所に水を何度も運んでは流し入れて水溜りを作ろうとする。60cm程度の小さな水溜りが出来ると、<水溜りあり>と同じような遊び方で水遊びを楽しむ。
- ・Dは水道で水の着地場所が（水の勢いで砂が流れて）丸く下の白いタイルが見えていることに気が付くと指で触ってみる。何度か触ると、地面の砂を握り落とす。直後は砂で丸い円は崩れるが、しばらくすると水の勢いで元に戻る様子をじっと見ては、同じことを繰り返す。数回繰り返すと砂をゆっくりと落とす姿に変わり、白いタイルの上を泥水が広がっていく様子を見ている様だった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

園庭に出ると、水溜りがない事もあり水道に集中して遊び始めていた。蛇口が3個しかない事もあり、満足以遊ぶことが出来ず次第に子どもの姿が減っていった。初めは蛇口を手で掴んで水の勢いが強くなったり指の隙間から水しぶきが跳び顔や身体にかかったりする様子を楽しんでいたが、次第に洗面器や石、葉っぱ等物を介して水遊びをする姿に変わっていった。また、水溜りがある時よりも水でじっくり遊ぶ姿は少なく、水遊びを楽しむ時間が短かった。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭の水溜りに設定された泡と触れ合いながら遊ぶ

<テーマの設定理由>

水溜りがある状態で遊ぶ子ども達の姿を追っていく中で、水溜りの上で足踏みをした後、水際をじっと見つめる子どもの姿がある事に気付いた。その際、「水溜まりの上を足踏みした事で、泡ができた事に興味を持ったのでは?」という保育者の視点から「泡」を水溜りの中に設定し、子ども達は水溜りの中で発生する泡にはどのような反応を示し、関わろうとするのかを見ていくことにした。

2. 活動スケジュール

①令和6年7月11日

・子ども達が園庭に出る前に、あらかじめ作った泡を水溜りの上に浮かせておき、泡との関わりを見守っていく。

②令和6年8月27日

・水溜りの中に入浴剤をあえて泡だたせない状態で入れておく。子ども達が入水し、動く中で泡が出来ていく事にどのような反応を示すのかを見守っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・洗面器

①水溜り+ボディーソープ

②水溜り+入浴剤（1～3袋）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水溜りの中にある泡を掬ったり、割ってみたりする。
- ・足を動かし、泡を作ってみる。
- ・泡の動きを見る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・泡が崩れないようにゆっくりと両手を置いてみる事で、泡の感触を両手の平で感じていた。
- ・水溜りに浮かんでいる泡のみを、洗面器で掬いとり、より近くで泡の形を見ていた。
- ・手の平で自分の身体や他児の身体を洗うようにして、泡を纏っていた。
- ・泡が身体に付くのを不快に感じたのか、なるべく動かないようにして、泡が水の流れに乗って自分の近くに来ないようにしていたり、手の平で泡を潰したりしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

初めは泡が水溜り一面にあることに戸惑う児もおり、触れるのに時間がかかる姿もあった。次第に環境に慣れ触れていく中で、泡を掬ってみたり踏んでみたりしながら感触を楽しんでいた。水溜りの中にあらかじめ泡があった時に比べ、入浴剤のみを水溜りに入れていた時の方が水溜まりの要素が多かった事で積極的に入っているようにみえた。全体を通して子どもと泡との関わりは水のみに関わりよりも短く、子ども達は泡よりも水への興味の方が強いと感じ、再び水に戻って、違ったアプローチの仕方を探っていきたいと思う。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テラスにて、色水との関わりを見る

<テーマの設定理由>

室内遊びの中で、色水のセンサリーボトルやブロックを手にとって、「赤」「青」等と色に着目して表現する姿が多くなってきた。その為、「水」と「色」を組み合わせたらどのような水との関わりになるのかを追ってみる事にした。そして、夏にテラスでダイナミックな水遊びをしてるのでテラスで行う。

2. 活動スケジュール

大タライの中に透明の水と、単色（赤→青→黄）で8月9月にかけて3日間ずつそれぞれ環境を設定し、色水との関わりを見る。その後透明の水と、3色の色水を用意し、単色と複数色の違いや子どもの様子を追っていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

粉絵の具（赤、青、黄）、アイシングカラー、大小様々な透明容器、大タライ×5、穴の開いたホース。3原色の色を始めは1色ずつ順番に出してみる（赤→青→黄）。次に、単色との違いを見るために三原色を同時に出して色水との関りを見る。色水だけでなく、夏の水遊びの延長でもあるので、引き続き透明な水を子どもたち自身が汲んだり触れたりできるようホースに穴を開けたものから水を出す。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

色水を使ってダイナミックに遊ぶ。また色水を使って見立てたり、つもり遊びをしたりする。色から子どもたちなりに何かを連想したり、移し替えを楽しんだりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・移し替えをする中で、中の色水の動きを見たり、泡が消える様子を見たりと手首の角度を調節しながらじっくりと遊ぶ姿があった。
- ・色から味や赤は熱い、青は冷たい等温かさ等の温度を連想する児もいた。
- ・単色で赤から青色に変わった日には色の違いに気が付き、「青」と言葉にする。
- ・タライに張った色水に手を沈めてゆっくりと上げてみたり、透明な容器に入れて交互に移し替えたりしながら、濃い色水に薄い色水を足す等して、色の変化を楽しんでいた。
- ・色を混ぜず容器の中にある色水を流してから、違う色を容器の中に入れる児が多くいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

単色でも混色でも、ダイナミックに遊ぶよりもじっくりと移し替えを楽しむ姿が多かった。混色にしても赤と青が混ざって色が変わったということには気が付くものの、紫になったと色が混ざったことによる、色の違いを発する児はいなかった。保育者が子どもたちの前で色を混ぜ合わせてみて、不思議そうな表情をする児もいたものの、言葉や仕草等の反応があまりなかったので、色のついた水か水という判断をしているのかなと感じた。しかし、色の違いによって赤は熱い、青は冷たい等と温度を表現していた。又、アイシングカラーで透明の青色水を用意したことで不思議そうに双方を見比べていた。同じ青色でも透明度や、なに（粉絵の具は不透明、アイシングカラーでは透明な色水になる）で色をつけるかによって様々な青色があるため、同じ青色でも様々な青色と触れたり、見比べたり違いに気がつけるように粉絵の具で色づけた色水とアイシングカラーで色づけた色水と一緒に出した。水に色がついていることで水の流れや動きがわかりやすいから、水の移し替えをじっくりと楽しんでいるのではないかと感じた。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭にて、色水との関わりを見る

<テーマの設定理由>

テラスにて色水との関わりを見ていたものの、水の移し替えが多かった。子ども達の大好きで遊び慣れている園庭に同じ環境を設定したらどのような色水との関わり方になるのか、遊び方になるのかを見てみる。

2. 活動スケジュール

令和6年9月中旬に園庭に三原色の色水の入ったタライを各色1つずつ置き、子どもたちの遊びの様子を見る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

赤、青、黄色の三色の色水をタライに入れて、園庭の真ん中に置き、周りに大小様々な大きさや形の透明の容器を複数個用意する。色水が無くなったらずに足せるように用意をし、テラスとの違いや子どもの様子を追う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

大きささまざまな透明容器を複数個用意し、色水の移し替えや様々な角度からじっくりと見る。その中で色に興味を持ったり、色の違いなどに気付いたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園庭に出ると、それぞれタライに入った赤・青・黄の色水に興味を持って向かう姿があった。ペットボトルや透明のカップに汲むと、隣においてある色水のタライの中に入れ、色が変わる様子に気づく児がいた。また、色水をカップに入れると、「みず」「ブルー」「あか」等、様々な表現で保育者に伝えていた。容器に入れた色水に水道の水を入れたり、砂の上に流したりして、色水が窪みに流れていく様子を見る等、テラスとは違う園庭ならではの遊び方が見られた。容器を使って1色ずつ汲む姿や、他児の持っている容器に同じ色の色水を入れようとする姿もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

はっきりとした色の色水を、大タライいっぱい水量で用意した。水量が前回よりも多かったからか、色水に興味を示す児と水道の蛇口に向かう児と半分ぐらいずつで別れていた。タライの中の色水がなくなっても2,3回できるように色水を用意していったことで子どもが満足するまで色水と関わっていたように思う。色水という事もあり、言葉はないものの見立てやすかったようで、保育者の口元までペットボトルに入れた色水を持ってきて飲み物に見立てているようだった。保育者も飲む真似をしたり一緒に乾杯したりしてその児の世界観と一緒に繰り返し楽しんでいった。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

透明容器を用いて水遊びをする

<テーマの設定理由>

水との関わりから泡や色水等の様々な要素を追加してみたが、その結果から子ども達は純粋な"水"そのものの触れ合いを楽しんでいるのではないかと考えた。そして、より水の動きや流れを感じられるよう、透明な容器を用意し、もう一度水との関わりを見てみる事にした。

2. 活動スケジュール

令和6年11月28日/11月29日

園庭に用意されたビニールプールに入ってみたり、透明容器を介して水と触れ合いながら遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・透明容器(洗面器、ペットボトル、キューブ型、コップ型)
- ・ビニールプール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水が張られたビニールプールで、全身で水の感触や動きを楽しむ。
- ・用意された透明容器から好きな形の物を選び取り、水を移し替えたり流したりして、水と触れ合いながら遊ぶ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・容器から容器へと移し替える事で、水が流れていく様子を見ていた。
- ・ペットボトルに水を入れようとする。最初はペットボトルの口からこぼれてしまう事もあったが、何度か繰り返すうちに、キューブ型の容器の角を飲み口に当て、溢れないように入れようとしていた。
- ・ビニールプールの水を、両手で思い切り叩きながら水を跳ねさせてみる等、ダイナミックに全身で水を感じながら遊んでいた。
- ・容器に溜めた水を砂場に持っていき、一気に流し入れ、水が染み込んでいくのをじっと眺めていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

ビニールプールではダイナミックに、透明容器ではじっくりと水に向き合って遊ぶという、子ども達の遊び方に違いは見られたものの、やはり色水や泡に比べて長い時間遊んでいる様子があり、子ども達は水そのものの触れ合いを楽しんでいるのだと感じた。また、透明容器を用意した事で、普段使っている園庭の玩具に比べて、容器の横や下から覗き込むようにして見てみる等、水の見方も広がっていたように思った。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年4月26日（金）

＜活動のテーマ＞

柑橘類を調べてみる、実際に探しに行ってみる

＜テーマ設定の理由＞

収穫した夏みかんに触れたり、食べたりして、酸っぱいことに気が付き、甘い物はどれに興味を持った為。

＜活動スケジュール＞

柑橘類や果物の種類を知る。甘い果物について知る。

＜環境設定＞

果物図鑑、画用紙、ペン

＜活動内容＞

- ・図鑑を見て柑橘類や果物を調べて絵にかいてみる。
- ・実際に八百屋に足を運び、どんなものが売っているのかを見てみる。

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

・図鑑を見て

「オレンジもみかんに似てるね」

（画用紙に絵を描いてみて）「名前を書いたら分かりやすいかな？」

「みんなが甘いと思うのはどれ？」

「いちごとかも甘いよね」

「夏みかんはすっぱかったけど、みかんもあまいよ」

「見ながら絵に描いてみたい！」



・八百屋に行ってみて

「いろんなフルーツがあるね」

「みかんに似てるけどこれはなんだろう？」（デコボン）

「みかんみたいなのたくさんあるんだね」



＜振り返り＞

・収穫した夏みかんや夏みかんで作ったジュースを実際に食べ、酸っぱさを感じたことから「甘いジュースを作るにはどうしたらいいんだろう」「甘い果物は何かだろう」と考える姿が見られた。図鑑を見て今まで自分が食べてきた経験をもとに「これは甘い」と話しながら、周りの友だちと意見を共有していた。

・八百屋に果物を見に行くと、夏みかんを基準に色や形を比べる姿が見られた。似たようなものがあることに気づき「これも食べてみたい」と話していたので、子どもが興味を持った物を使ってさらに深めていく機会を作りたいと思う。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年5月20日（月）

＜活動のテーマ＞

みかんのジュースを作り飲み比べてみる

＜テーマ設定の理由＞

夏みかんのジュースづくりを通して、別の柑橘類への興味、味の違いへの興味があった為。

＜活動スケジュール＞

それぞれの柑橘類を絞って飲み比べてみる

＜環境設定＞

テーブル、ボウル、紙コップ

＜活動内容＞

- ・デコポン、河内晩柑、カラマンダリンの三種類を飲み比べて違いを感じてみる。
- ・気づいたことや感じたことを友だちや保育士と伝え合う。

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

- ・それぞれの色や形、大きさの違いを見比べてみる。
- ・匂いをかいで「夏みかんと同じ匂いがするね」と話す。
- ・飲み比べてみて
- 「これは夏みかんよりも甘いね」
- 「甘酸っぱくておいしい」
- ・午後、みかんの違いを思い出しながら書き出してみる。
- ・みかんの絵をかき、それぞれのみかんに吹き出しを書き、中に色の違うハートを書く
- 「色の違いは何があるの？」
- 「ピンクより黄色の方が甘い」
- ・別の児も同じように吹き出しにハートを書き、美味しさや酸っぱさを表現する。



＜振り返り＞

- ・前回、八百屋に行った際に夏みかんに似たようなものがあることに気づき、比べたいと話していた為、今回の活動を行った。実際に並べて見比べてたり、ジュースを飲み比べてみたりしたことで、色と味の違いが関係しているのか考える児もいた。
- ・午後、絵に描いてみるとハートの色でそれぞれが感じた違いを表現していた。違いを言葉で表現すると想定していたが、実際は色で違いを表現していた為、色々な方法での表現の仕方があることを改めて感じる事が出来た。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年9月5日（木）

＜活動のテーマ＞

みかんをじっくり観察し、皮の色を作ってみる

＜テーマ設定の理由＞

みかんをじっくりと観察し、興味を深めていくため

＜活動スケジュール＞

- ・3グループに分かれて行う。
- ・気になる柑橘を買いに行き、じっくりと観察する。観察をした後は、本物そっくりの色を作ってみる。

＜環境設定＞

絵の具（赤、青、黄）、筆、画用紙、みかん

＜活動内容＞

- ・みかんの色をじっくりと観察し、発見を楽しむ
- ・本物そっくりの色を作り、色の違いに気付く

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども『』、保育者『』

『みかんは、オレンジ色だね』『良い香りがする！』

『観察しながら、本物そっくりの色を作ってみようか』『どうしたらオレンジ色ができるかな？』

『赤と白を混ぜてみようかな。』

『少し違う気がする。。。』

『みどりも混ぜてみようかな』

『赤と黄色を混ぜると、色が近付いてきたよ！』

『本当だ！真似してみようかな』

『オレンジ色だけど、本物と見比べてどうかな？』

『少し違う気がする！黄色を足してみようかな！』

『色が近付いてきた気がするね！』



＜振り返り＞

・オレンジの色作りでなかなか絵の具の加減が難しく、量が多くなるが多かったため、絵の具の容器を口が小さいものに変えるなど検討していく。
また、色作りをしていく中で、黄色を入れたらどうなるか、青を入れたらどうなるかが分からずにいる姿があったので、今まで使ってきた色と一緒に見ながら、「これに黄色を入れたらどうなった？」と問いかけていくようにした。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年9月6日（金）

＜活動のテーマ＞

みかんをじっくり観察し、皮の色を作ってみる

＜テーマ設定の理由＞

みかんをじっくりと観察し、興味を深めていくため

＜活動スケジュール＞

- ・3グループに分かれて行う。
- ・気になる柑橘を買いに行き、じっくりと観察する。観察をした後は、本物そっくりの色を作ってみる。

＜環境設定＞

絵の具（赤、青、黄）、筆、画用紙、みかん

＜活動内容＞

- ・みかんの色をじっくりと観察し、発見を楽しむ
- ・本物そっくりの色を作り、色の違いに気付く

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

- ・色水を使って色を作る児が多かったが、作った色を紙に塗ってみると、色が薄いことに気が付き、ほとんどの児が絵の具を使って色を作り始める。



- ・オレンジを作るには赤と黄色を混ぜることを知っていたが、赤が多くなるとなかなかオレンジにならずに悩む姿があった。
- ・一人の児が色の調節をしていると「黄色をいっぱい、赤をちょっとにしたらオレンジができる」と周りの児に伝える。



→周りの児は真似をしてオレンジを作ってみる。



- ・黄色と赤で作った色に青を入ると、茶色になってしまうことに気づく。
- ・全体的に周りの児がどうやっているのかを観察して、色が近付いている児のやり方を真似していた。

＜振り返り＞

- ・絵の具の容器の口が少し太かったことで、量の加減が難しく、色の調節に悩む児が多かった。絵の具の容器の口を小さいものに変える事を検討していく。
- ・自信がなかったのか、周りの児のやり方を見て真似しようとする児が多かった。自分なりに考えて自由に作れるように、少人数で活動する等、人数も検討していく。
- ・気づいたことを言葉にして周りの児に伝え、それを聞いて実際に色を作ってみる等、グループ全体で情報を共有していく姿があった。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年9月10日（火）

＜活動のテーマ＞

みかんをじっくり観察し、皮の色を作ってみる

＜テーマ設定の理由＞

みかんをじっくりと観察し、興味を深めていくため

＜活動スケジュール＞

- ・3グループに分かれて行う。
- ・気になる柑橘を買いに行き、じっくりと観察する。観察をした後は、本物そっくりの色を作ってみる。

＜環境設定＞

絵の具（赤、青、黄）、筆、画用紙、みかん

＜活動内容＞

- ・みかんの色をじっくりと観察し、発見を楽しむ
- ・本物そっくりの色を作り、色の違いに気付く

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者『』

「みかんの皮と同じ色作るんだよね」

「オレンジは、赤と黄色を混ぜるんだよ」「混ぜたけど違う」

「白を混ぜたら薄まるかな？」

「赤よりも黄色をたくさん入れたらいいんだよ！」

『本物みたいになったかな』『みかんの色に近づいてきたよ！』



＜振り返り＞

・本物に似た色を作る為に、みかんをじっくりと観察したり、似ている色ができたらみかんに塗り、色を比べてみたりしていた。子ども達もじっくり色の観察をしていると、薄めのオレンジに近付くためにはどうしたらいいのか、じっくり考える姿があったので、保育士も一緒に考えたり、探求していった。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年 9月 17日（火）

＜活動のテーマ＞

それぞれのみかんの色を観察してみる

＜テーマ設定の理由＞

みかんへの興味を深める為、他児が作った皮の色を見比べてみるため

＜活動スケジュール＞

- ・作った色の画用紙を張り出し、掲示していく
- ・本物と比べたり、他児の見たりして気付きを伝え合う

＜環境設定＞

模造紙、画用紙、みかん

＜活動内容＞

- ・旧ランチルームに掲示し、みんなで見比べてみる
- ・子ども達と気付きを伝え合っていく

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

「この色似ているね！」

「○○ちゃんのも本物そっくり！」

「どうやってこの色作ったんだろう？」

「本物のみかんある？持ちながら比べてみたい！」

「このみかんは、これに似ているね。もう一つのみかんは、これに似てる！」

『自分のだけじゃなくて、お友だちのはどうだったかな？』『○○ちゃんのが似ていた！』

「みかんっているんな色があるんだね」

「いろんなみかん調べてみたい」



＜振り返り＞

- ・みかんの皮を観察し、色を作ってみた物をみんなで見比べると興味を持った児は、本物を持ちながら観察していた。また、みかんにもいろんな色があることに気付いた様子もあったので、様々なみかんを調べたい気持ちもでてきた。興味を持った児でいろんなみかんを調べたり、買い物へ行ったりし調べていきたい。
- ・今回は、みかんの皮を調べていき、中身も気になる様子があったので次回は、中身を見て色を確かめていく。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年 9月 27日（金）

＜活動のテーマ＞

みかんの中身を調べる

＜テーマ設定の理由＞

中身への興味がでてきたので、じっくり観察したり、色を調べたりするため

＜活動スケジュール＞

皮と中身の違いや色の違いに興味を持ち、調べて見る

＜環境設定＞

みかん（オレンジと春みかん）、筆、画用紙、入れ物

＜活動内容＞

- ・みかんの中身を観察し、果汁を絞る。
- ・匂いをかいだり、皮との違いを調べて見る
- ・果汁を使い、画用紙に描いてみる

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども『』、保育者『』

「皮と中身は全く色が違うね」

「オレンジは、黄色で春みかんは、オレンジ色だね」

「黄色は、酸っぱいにおいがするけど、オレンジ色は、甘いにおいがするね！」

『この果汁で画用紙に描いたらどうなるかな？』『やってみたい！』

「色が付いたよ！」「少し良いにおいがする！」

「果汁でみかん描いてみようかな」



＜振り返り＞

- ・みかんの種類によって違いが分かるようにオレンジと春みかんを用意してみた。子ども達からも、色やにおいの違いに気付く姿もあり、色によって甘さが違う事も発見していた。さらに興味が湧くように、果汁で絵を掛けるように筆と画用紙を用意すると、オレンジと春みかんを描く子もいた。
- ・色や匂いの違いに気付いてきたので、本物そっくりのみかんを紙粘土でも作れるようにしていきたい。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年11月7日（木）

＜活動のテーマ＞

みかんの中身の色作りをしてみる、みかんの絵を描いてみる

＜テーマ設定の理由＞

みかんの皮の色作りをして、中身にも興味を持つ児がいた為

＜活動スケジュール＞

- ・興味がある児で行う
- ・中身を観察し、同じ色を作ってみる。

＜環境設定＞

絵の具（赤、黄、青、白）、画用紙、みかん、色水用に食紅、書画カメラ

＜活動内容＞

- ・みかんの中身の色をじっくりと観察して、本物をそっくりな色を作ってみる
- ・観察する中で、自分なりに気づきを表現する

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

「オレンジを作るには赤と黄色を混ぜるんだよね」

「色が分かりやすいように容器に果汁を絞ってみる」

「色水で作った方が似てるかも」

「絞った方がいい匂いがするね」

・近い色が完成すると早めに終わらせる児が多かった。

・絵の具を使って中身の色を作っていた児は「みかんの絵を描きたい」と話し、画用紙にみかんの絵を描くことを楽しんでいった。

→夕方、書画カメラを使ってスクリーンにみかんを映し出して、観察しながらみかんの絵を描けるように環境設定をする。

「ハタの形が面白いね」

「オレンジと黄色と白と緑が混ざってるんだね」

・色鉛筆を使ってみかんの絵を描いてみる。



＜振り返り＞

・みかんの皮の色作りで、オレンジ色の作り方を経験していた為、すぐに本物に近いオレンジ色を作ることができる児が多かった。また、皮の色では絵の具を使った方が本物に近かったが、中身の色は色水を使った方が本物に近いと色作りをしていく中で気づく児がいた。

・絵の具を使って中身の色作りをしていた児は途中から画用紙にみかんの絵を描くことを楽しんでいった。みかんをじっくりと観察していたことで、ただオレンジ色を使うだけでなく、場所によっていろいろな色を混ぜながら描いていた。その為、夕方に書画カメラを使ってみかんを大きく映し出すと、より鮮明に観察できたことから、細かい皮の色の違いに気づく姿もあった為、後日、同じように書画カメラでじっくりと観察する時間を確保していきたい。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年11月27日（水）

＜活動のテーマ＞

書画カメラを使ってみかんとじっくりと観察して絵に描いてみる

＜テーマ設定の理由＞

前回のみかんの中身作りをした際に、みかんの絵を描くことを楽しむ姿があったため

＜活動スケジュール＞

書画カメラで映し出してじっくりと観察してみかんの皮や中身の特徴に気づき、絵で表現してみる。

＜環境設定＞

書画カメラ、みかん、画板、画用紙、色鉛筆

＜活動内容＞

- ・みかんと大きな画面でじっくりと観察して、細かいところまで絵に描いてみる

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども『』、保育者『』

- ・みかんの皮や、中身をじっくりと観察して絵に描いてみる。

「ここだけちょっと緑色が混ざってるね」

『中身の皮も剥いて見てみる？』中身の薄皮を剥いて、剥く前の物と並べてみる。

「色がちょっと違うんだね」

「皮がちょっとだけ厚い！」

- ・みかんの皮の裏の絵を描いてみる

「なんか迷路みたいになってる」



＜振り返り＞

・みかんの皮だけでなく、中身や中身の皮を剥いたもの、皮の内側など、みかん全体を書画カメラに移したことでじっくりと観察していた。また、じっくりと観察したことで今まで観察してきた柑橘類との違いに気づく姿もあった。

・今回は観察をしながら絵で表現した為、後日、紙粘土を使って形も本物に近い物を作っていきたいと思う。

つぼみぐみ～みかんの研究～

年間テーマ：みかんの研究 活動日時：2024年 12月 13日（金）

＜活動のテーマ＞

夏みかんを紙粘土で作ってみる

＜テーマ設定の理由＞

色や匂いを調べてきたので、紙粘土で形を作ってみようと思った為。

＜活動スケジュール＞

夏みかんの特徴を知り、形にしてみる。

＜環境設定＞

紙粘土、絵の具、夏みかん

＜活動内容＞

- ・夏みかんを見ながら、紙粘土で作ってみる。
- ・見た目をじっくり観察し、色や見た目の特徴に気付いたり、友だちと伝え合ったりしながらやる。

＜活動中の子どもの姿や保育者との関わり＞ 子ども「」、保育者「」

「夏みかんってこのくらいの大きさかな？」

「本物と比べてみると少し小さくない？」（保育士が大きい丸を作ってみる）

「私達の手よりも大きいから、作るの大変ー！」

「本物と見比べてみようかな…大きくできた気がする！」

「色も塗っていく！黄色で塗って…」

「葉っぱは、緑だね」「本物をよく見るとみどりの部分もあるね！」

「確かによく見ると緑の部分もあるね」

「つぶつぶした部分もあるよ！ただの丸じゃないね」



＜振り返り＞

・色や形を調べてきた中で、紙粘土で本物をじっくり観察しながら作る事で色が黄色だけではない事やきれいな丸ではなく、少しごつごつしている事等、発見した様子があった。

・悩みながら作っている子には、保育士もじっくり観察しながら「これって大きいかね」「ここの部分はなんだろかねえ」等、やりとりをしながら関わると一緒に気付いたり感じた事を伝え合いながら、深めていた。